

## 平成 27 年度 第 2 回筑紫野市地域公共交通会議議事録

期 日 平成 27 年 10 月 23 日（金）

時 間 10:00～11:30

場 所 筑紫野市役所 本館 2 階 第 2・第 3 会議室

### 出席委員

藤木正文委員、中島徹也委員、齋藤友二委員、森岡壯一委員、森民夫委員、戸田登喜雄委員  
河内益夫委員、畔田友美委員、森賢二委員、加勢田学委員、山内和彦委員（代理）  
永田孝男委員、中蘭裕蔵委員、原数政委員、辰巳浩委員、山口浩司委員、江藤俊哉委員  
藤木繁尅委員、澤渡裕文委員（代理）、櫛木孝一委員 以上 20 人

### 欠席委員

田中靖久委員 以上 1 人

### 事務局

総務部 北橋部長  
安全安心課 八尋課長、萩尾係長、寺崎主任 以上 4 人

傍聴人 2 名

### 【議事】

事務局 定刻になりましたので、ただいまから第 2 回筑紫野市地域公共交通会議を開催いたします。私は本日の司会を務めます、筑紫野市安全安心課の八尋と申します。

本日の委員の出席者につきましては、委任状をいただいております代理の方も含めて 20 名となっております。規約第 8 条第 2 項より、「会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。」とありますが、本会議の委員数は 21 名ですので、会議は成立していることを報告いたします。

それでは、規約第 8 条第 1 項により、会長が会議の議長となりますので、ここからの会議の進行につきましては会長をお願いいたします。

議長 皆さん、おはようございます。議長を務めます、筑紫野市副市長の藤木正文でございます。委員の皆様方にはご多忙中にも関わらずご出席いただき、誠にありがとうございます。

10 月 2 日に設立しました筑紫野市地域公共交通会議ですが、本日で 2 回目の開催となります。前回の会議では、主に交通会議の設立や、市内公共交通網の現状についての協

議を行いました。本日の会議では、公共交通に関する市民アンケートや地区別の懇談会などの結果を基に、市内公共交通の課題を明らかにしつつ、筑紫野市地域公共交通網形成計画の策定にかかる方針などについて確認していきたいと考えています。

平成27年度中の計画策定に向けて、今回も活発な議論を、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に基づき会議を進めます。まずは、協議事項「筑紫野市地域公共交通網形成計画策定にかかる取組みの報告」について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に基づき説明)

議長

ただいま「筑紫野市地域公共交通網形成計画策定にかかる取組みの報告」について説明がありましたが、質疑はございませんか。

委員

資料②の14ページでコミュニティバス等の新たな交通手段について質問しているが、前提となる質問が筑紫野市にとってコミュニティバスが必要なのか、回答者自身にとって必要なのか、曖昧な気がする。調査票を設計した人は筑紫野市にとってという意図かと思うが、回答されている方には必ずしもそのように伝わっていない可能性がある。

事務局

ご指摘の通り回答者に両面で捉えられている可能性があるが、筑紫野市としてはどちらにもとれるように分析できると考えている。

委員

そうすると、問6の2番の将来的に必要であるという選択肢は、個人であれば今運行しても自分は使わないという回答であるが、筑紫野市にとってであれば、将来は必要だが今は不要という理解になるかと思う。

事務局

筑紫野市にとってはこの結果から結論を出すわけではないが、将来的に必要であるという回答が多いという事は、今すぐに運行した場合に利用者が見込める状態ではないと認識しているため、すぐにコミュニティバスを運行するべきではないと思っている。将来的に高齢化が進むにあたり移動制約が出る方も多くなるため、いま利用しないから検討しないのではなく、将来的に必要であるという認識のもと検討していきたい。

議長

内容については確認いただき、何かあれば事務局に連絡をお願いします。  
それでは議事に移ります。「筑紫野市地域公共交通網形成計画策定にかかる方針」について、事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に基づき説明)

議長

ただいま「筑紫野市地域公共交通網形成計画策定にかかる方針」について説明がありましたが、質疑はございませんか。

委員 フィーダー路線とあるがどのような意味か。

事務局 フィーダー路線とは、幹線に対する支線というイメージであり、例えば、電車が幹線、バスが支線と言う役割を担っており、その部分をフィーダーと言う表現を使っている。

委員 何年か前にコミュニティバスに関して市の方で導入検討をされた経緯があると思うが、現在どのようなになっているのか。

事務局 以前、コミュニティバスの運行に関する検討を行ったが、最終的には凍結するという結果に至っている。

委員 凍結になった主な理由は何か。

事務局 その時の結果はコスト面が一番大きい理由となっている。

委員 コミバスは凍結という事であるが、方針①には新たなコミュニティ交通の導入とあり、目標では路線バスとカミーリヤバスの連携強化や、新たな公共交通の導入検討となっているが、コミバスは凍結だが、カミーリヤバスと路線バスは連携するのか、新たなコミュニティ交通を導入するのか。

事務局 コミュニティバスなどを含めた、地域のコミュニティなどで運行できるような形も含めた状態で記載している。コミュニティバスと特定しているものではなく、広義で記載している。第3回では詳細なメニューを出していき、可能な部分を協議会等で絞っていききたい。

補足であるが、凍結と一言でくくったが、その時の計画はコミュニティバスありきで、全市的に導入する計画であり、その場合、莫大な経費がかかってくるので、それでは持続可能性が薄いので凍結となっている。今回、本計画の中でコミュニティバスの導入を検討しないかと言うとそうではなく、コミュニティバスも一つの要素としてあってよいと思っており、その他にも新たな交通の導入もあると思うし、筑紫野市には路線バスと鉄道、カミーリヤバスがあるので、ある一定程度は他市に比べて確保されているため、それらの利用促進や乗継が上手くいくような方法も含めて検討していきたい。

委員 目標①の中で路線バスの機能強化や見直しとあるが、既存路線バスを運行しているのでは交通事業者であるため、お願いしていくということか。

事務局 現在運行しているのは交通事業者ではあるが、全てがお願いでなく、従来公共交通に対して交通事業者が行政に依存しているという状態があるため、行政ができるところは取り組んでいくなど役割分担を明確にしていき、両方が責任を持って公共交通網の持続可能性を確保していきたい。

委員 目標の中に幹線軸となる路線バスとあるが、カミーリヤバスも幹線と言う位置づけで考えているのか。

事務局 現在はカミーリヤバスは幹線ではなく福祉巡回バスであるため、公共施設やカミーリヤに行くことを目的にしており、幹線ではない。幹線軸となれば赤字補填をしていない路線や市外からの幹線バスを考えている。

委員 方針②で乗換拠点となるような交通結節点の結節性向上を目指すと記載されているが、これも目標①の地域公共交通網の見直しに含まれるのではないか。駅や拠点へのフィーダー路線と記載されているが、例えば山家道など拠点と成っている地点など、普通の路線バスの結節点も考えながら公共交通網を見直すとなると、目標①にも方針②も考慮することでもう一つのフィーダーが出てくるのではないか。

事務局 ご指摘の通り、目標①の公共交通網の見直しと乗換拠点の設置などは該当するので反映したい。

委員 方針③であるが、関係機関と連携とあるが、路線バスの強化や見直しもあるので交通事業者との連携も加えた方がよいのではないか。地域主民、隣接自治体、商業施設や病院等となっている。

事務局 関係機関の内訳として3点挙げているが、ご指摘の通り反映したい。

委員 7ページの方針①で新たなコミュニティ交通の導入とあり、目標①では新たな公共交通の導入とあるため、同じ意味であるならば表現を統一したほうがよい。コミュニティ交通はあまり表現として聞かないので、地域公共交通という表現とするか、路線バスを含めるなら公共交通でよいかと思う。また、コミュニティ交通の導入を目指すとするが、目指すは求める結果と言う意味合いがあり、新たなコミュニティ交通の導入はそれを求めるものではなく、結果的には公共交通空白・不便地域の解消につながるのではないか。そのため的手段としてコミュニティ交通の導入があり、やると決めているのであれば推進で分からない場合は検討など、表現の統一を図った方がよい。

3点目であるが、様々な市内の交通の現状を報告いただいたが、これらは全てあることを前提に話をするのか、統合や見直しも考えるのか。例えば、北海道の登別町では地域公共交通のコミュニティバス等を考える際に、スクールバスや民間の送迎バスなど色々なものを一緒に取り組んでおり、今回スクールバスの対象者は24名となっているが、小学生以外に高齢者も乗りたいという意見もあるかと思う。混乗させることでコミュニティバスの機能が果たせるのであれば、そのようなやり方もあるし、カミーリヤバスについても無料でやっているが、一度有償でやっておき、カミーリヤに行く方には無料チケットを配布することで、公共交通空白地域の解消などにもつながる可能性があると思う。その辺は今回、検討しないのか教えてもらいたい。

事務局 1点目、2点目については言葉の使い方が入り混じっていたが、コミュニティ交通は公共交通で統一したいと思うし、公共交通の導入を検討し、公共交通空白・不便地域の解消を目指していくという表現に修正したい。

また、スクールバスやカミーリヤバスの有償化の検討については、第3回目の資料のメニューでは、その辺も検討するという内容がでてくると思う。実態調査の結果でも声が出てきているので、整理していきたい。スクールバスやカミーリヤバスは置いたままの状態ではなく、全て含めた検討課題として考えていきたい。

議長 他に質疑はありませんか。

それでは、「筑紫野市地域公共交通網形成計画策定にかかる方針」について承認いただけますでしょうか。

(委員一同了承)

議長 ありがとうございました。事務局はこの方針に基づき、次回会議において形成計画(案)の提示をお願いします。

それでは本日予定しておりました事項は全て終了しましたので、ここで議長を退任いたします。ありがとうございました。

事務局 藤木会長、ありがとうございました。

次回会議の日程は未定ですが、11月下旬から12月上旬に開催したいと考えています。

以上